

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 浴風会
施設名	よくふう保育園
報告者(役職)	遠藤雅晴 (理事：地域サービス部長)
住所・連絡先	東京都杉並区高井戸西 1-12-1
	電話 03-5941-5063
	E-mail m-endo@yokufuukai.or.jp

○タイトル (保育計画)

浴風会の森の中で明るく伸び伸びとした創造性豊かな保育を。

○主な助成備品

どうぶつベンチ、桐・収納ベンチ

1. 保育計画策定の目的

浴風会の森の中に、平成29年4月1日、よくふう保育園が誕生しました。

よくふう保育園は、社会福祉法人浴風会が設置し、社会福祉法人東京家庭学校(上水保育園)に運営を委託する事業所内保育所です。認可定員は、0歳児3人、1歳児6人、2歳児6人、計15人(従業員枠10人、地域枠5人)です。

浴風会は、高齢者福祉・医療・介護の分野で、94年の歴史と実績があります。しかし、児童福祉施設である保育園を運営するのは初めてです。

浴風会の森の中にある六つの老人ホームや、病院や介護老人保健施設などの施設を、毎日利用されている1,000人以上の高齢者の方々は、どんな保育園ができるのだろうと、ひ孫のような、かわいい子どもたちに会えるのを楽しみにしていました。

ベンチがあれば出会いが生まれ、交流が始まり、思い出がつけられます。

どうぶつベンチ(室外)や、桐・収納ベンチ(室内)を活用することにより、浴風会の森の中で、心身共に健康で明るく伸び伸びとした創造性豊かな子どもを育てることができるよう、保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

① どうぶつベンチの設置(室外)

当初、どうぶつベンチは、よくふう保育園のあるケアハウスの建物の南側の隣接地に設置する計画でした。しかし、この場所は、遊びの空間として使用するには狭く、広げるためには、植栽を撤去したり、彫刻モニュメントを移設するなどの必要があり、想定以上の費用や時間がかかることが判明しました。

そこで、法人の許可を得て、浴風会本館の南側にある、約 800 平方メートルの芝生の空間を、子どもたちの遊びの広場として利用することにしました。

この芝生の広場には、樹齢 80 年を超えるケヤキが 4 本そびえています。そのうち北側の 2 本は寄り添うように立っているので、この 2 本のケヤキの根元に、どうぶつベンチ(かいじゅう・こぐま)を設置しました。



② 桐・収納ベンチの設置(室内)

よくふう保育園では、一つの部屋に、0 歳児から 2 歳児まで 15 人が一緒に生活することで、大家族のような集団の良さを生かした保育が行われています。

そうした中、0 歳児の安全・安心な食事や遊びの空間を確保するために、パーティションの代わりに、桐・収納ベンチを設置しました。



3. その成果と評価

① どうぶつベンチの活用で子どもたちの遊びの空間が飛躍的に拡大

浴風会の中庭の芝生は、保育園ができる前は、「芝生の中に入らないでください」の看板が立てられ、誰もが立ち入れる場所ではありませんでした。

それが、よくふう保育園ができてから、劇的に変わりました。この場所が、子どもたちの遊びの空間に変わったのです。ケヤキの根元にある2台のどうぶつベンチは、その象徴として、浴風会の森の風景の中に溶け込んでいます。

2台のベンチと、4本のケヤキがあるだけで、他には何もない広々とした空間です。子どもたちは、思い切り体を動かす喜びを保障され、大好きなどうぶつベンチに座って、お友達と楽しく過ごす時間を共有することができるようになりました。

また、ベンチの周囲の芝生や、落ちているケヤキの葉っぱや、芝生で出会う虫たちを通して、自然から学び、不思議の目をふくらませ、「学びの芽」を育てることができました。



② 桐・収納ベンチによる0歳児の安全・安心な空間の確保

桐・収納ベンチが、パーテーションの代わりにになり、0歳児にとって、安全な食事や安定した遊びの空間を作ることができました。

ベンチの表面は、やさしいピンク色の塩ビレザーで出来ており、クッション性があるので、つかまり立ちや伝い歩きをするようになった0歳児にとっても、ぶつけても痛みを感じずに、安心してつかまり歩くことができました。

さらに、月齢が進んだ子どもたちが、棚の上で絵本を開いたり、手遊びや歌などを保育士やお友達と共に楽しむこともできました。



4. 今後の課題と展望

浴風会の森の中の、どうぶつベンチのある芝生広場の噂は、周辺の保育園にも伝わりました。よくふう保育園は、0歳児～2歳児15人定員ですが、近隣にある、定員100人以上の大きな保育園の0歳児～5歳児の子どもたちも、クラスごとに、時間をずらして、どうぶつベンチのある芝生広場に遊びに来るようになりました。

3年前までは高齢者の姿しかなかった浴風会に、どうぶつベンチがきっかけとなって、芝生広場で元気に遊ぶ子どもたちの姿が日常的に見られるようになったのです。

子どもたちがいないときは、どうぶつベンチは、お散歩の高齢者が、ちょっと一息休憩する、憩いのスペースにもなっています。

よくふう保育園の保育目標の一つに、「思いやりのある子を育てること」があります。今後は、この保育目標を念頭に、子どもたちの情緒の安定を図りながら、どうぶつベンチのある芝生広場を活用して、高齢者の方々との楽しい交流も計画していきたいと考えています。

第一生命財団からの夢のある贈り物、本当にありがとうございました。

